文京区非核平和都市宣言 40 周年記念事業

# 文京区平和特派員活動報告書

文京区

# はじめに

文京区では、世界の恒久平和と永遠の繁栄を願い、「文京区平和宣言（昭和５４年１２月７日）」を、さらに、わが国が唯一の被爆国として、被爆の恐ろしさと被爆者の苦しみを全世界の人々に訴え、二度と広島・長崎の惨禍を繰り返さないことを願い、「文京区非核平和都市宣言（昭和５８年７月１３日）」を行いました。

本年７月、「文京区非核平和都市宣言」から４０年を迎えました。これを記念し、あらためて平和の尊さを考え、区民の平和意識の高揚を図るため、文京区として初めて中学生を被爆地に派遣し、平和について学ぶ「文京区平和特派員事業」を実施しました。

本事業は、文京区に住む中学生が、同世代の仲間と実際に被爆地を訪れ、体験・体感したことを周囲の人々に発信し、戦争の悲惨さや平和の尊さについて伝え拡げてもらうことで、参加者だけにとどまらず、より多くの方の平和に対する理解を深めることを目的としています。

この報告書を通して、文京区平和特派員が学び、感じたことを１人でも多くの方にご覧いただき、平和について考えるきっかけとなれば幸いです。

令和５年１１月　文京区

# 目　次

区長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
文京区平和宣言・文京区非核平和都市宣言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
活動紹介
　被爆樹木植樹・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　被爆地派遣（１日目）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
　被爆地派遣（２日目）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
　被爆地派遣（３日目）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
平和特派員の報告
　核の無い平和な世界へ　岩﨑　寧々　中学３年生・・・・・・・・・・・32
　原爆の日に広島を訪れて　栗木　小斐　中学１年生・・・・・・・・・・・33
　広島爆心地レポート　顧　弈煊　中学１年生・・・・・・・・・・・34
　核抑止論ではなく核廃絶を！　近見　優衣　中学２年生・・・・・・・・・・・35
　平和を保ち続ける努力を　永井　悠希子　中学３年生・・・・・・・・・・・36
　核兵器のない平和な未来へ　長田　怜士　中学２年生・・・・・・・・・・・37
　人類の平和と繁栄のために　林　志優　中学２年生・・・・・・・・・・・38
　平和特派員として学んだこと　林　莉央　中学１年生・・・・・・・・・・・39
　伝えていくことの大切さ　福知　芽衣　中学３年生・・・・・・・・・・・40
　私たちからスマイルの花を広げるために　溝口　奏　中学１年生・・・・・・・・・・・41
　平和な世界にむけて　宮田　周一郎　中学１年生・・・・・・・・・・・42
　被爆の地「ヒロシマ」　矢吹　佳穂　中学２年生・・・・・・・・・・・43

# 区長あいさつ

文京区長　成澤廣修

終戦から７８年が経過し、戦争を知る世代が少なくなり、私たちから戦争に関する記憶が薄れつつある中、ロシアによるウクライナ侵攻等の影響で世界情勢の不安定さが増し、区民の平和への関心は高まっているといえます。

文京区は、文京区平和宣言（昭和５４年１２月７日）及び文京区非核平和都市宣言（昭和５８年７月１３日）のもと、平和の尊さを考え、区民の平和意識の高揚を図ることを目的として、様々な平和事業を実施してきました。

文京区非核平和都市宣言４０周年を迎えた本年は、文京区として初めて被爆地への派遣事業を実施し、意欲をもった１２名の中学生を広島に派遣しました。

広島での平和学習では、平和記念資料館の見学など精力的に活動を行い、被爆の惨状が残る建築物などの資料、原爆投下当時の広島市民の苦労、平和記念式典への参列、広島や長崎の子供たちの平和に対する意識など、多くのことを学びました。

参加した中学生は、独自に事前学習を行うなど高い意欲をもって取り組んでおり、今回の広島派遣での貴重な経験は、大きな財産になったと確信しています。

今後は、「初代平和特派員」として、平和の大切さや原爆被害の悲惨さを多くの方々に伝え拡げていただきたいと思います。

また、本報告書を通して、平和特派員の活動を多くの方に知っていただくとともに、改めて平和について考える機会として、参加者だけにとどまらず、お読みいただいた方の平和に対する理解が一層深まることを期待しています。

結びに、本事業を実施するに当たり、ご協力いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。

# 文京区平和宣言
# 文京区非核平和都市宣言

## 文京区平和宣言

文京区は、世界の恒久平和と永遠の繁栄を願い、ここに平和宣言を行い、英知と友愛に基づく世界平和の実現を希望するとともに人類福祉の増進に努力する。
右、宣言する。

昭和 54 年 12 月 7 日　文京区

## Peace Declaration

Bunkyo city, desiring permanent peace and perpetual prosperity, hereby proclaims a “Peace Declaration”. We hope to realize a world peace which is based on wisdom and friendship, and pledge to make every effort to improve the welfare of mankind.

December 7 1979 Bunkyo City, Tokyo

## 文京区非核平和都市宣言

真の恒久平和を実現することは、人類共通の願いであるとともに文京区民の悲願である。
文京区及び文京区民は、わが国が唯一の被爆国として、被爆の恐ろしさと被爆者の苦しみを全世界の人々に訴え、再び広島・長崎の惨禍を繰り返してはならないことを強く主張するものである。
文京区は、かねてより、世界の恒久平和と永遠の繁栄を願い、平和宣言都市として、永遠の平和を確立するよう努力しているところであるが、さらに、われわれは、非核三原則の堅持とともに核兵器の廃絶と軍縮を全世界に訴え、「非核平和都市」となることを宣言する。

昭和 58 年 7 月 13 日　文京区

## Non-Nuclear Peace City Declaration

We, the citizens of Bunkyo City, share the deep desire of all human beings to realize a true and permanent peace.
Bunkyo City and its citizens, as representatives of the only atom-bombed nation, appeal to all the people of the world to acknowledge the horror of nuclear weapons and the sufferings of the atomic bomb victims, and urge that the disasters of Hiroshima and Nagasaki are never repeated.
Bunkyo City has for many years desired the permanent peace and perpetual prosperity of the world and as a “Peace Declaration City” pledged to increase its efforts establish permanent peace. Furthermore, we appeal to all the world for disarmament and the abolition of nuclear weapons on the basis of the three nonnuclear principles, and we hereby declare our intention of becoming a “Non-Nuclear Peace City”.

July 13 1983 Bunkyo City, Tokyo

# 事業概要

## 目的

被爆地を訪れ、体験・体感したことを周囲の人々に発信し、戦争の悲惨さや平和の尊さについて伝え拡げることを目的とする。

## 対象

文京区在住の中学生（申込書による一次選考の後、面接による選考で決定）

## スケジュール

| 項目 | 日程 |
|---|---|
| 募集期間 | 令和５年４月２５日（火）から令和５年５月１９日（金）まで |
| 被爆樹木植樹 | 令和５年７月１５日（土） |
| 被爆地派遣 | 令和５年８月５日（土）から令和５年８月７日（月）まで |

## 平和特派員名簿

（五十音順）

| 氏名 | 学年 | 氏名 | 学年 |
|---|---|---|---|
| 岩﨑（いわさき）　寧々（ねね） | 中学３年生 | 栗木（くりき）　小斐（さや） | 中学１年生 |
| 顧（こ）　弈煊（いしえん） | 中学１年生 | 近見（ちかみ）　優衣（ゆい） | 中学２年生 |
| 永井（ながい）　悠希子（ゆきこ） | 中学３年生 | 長田（ながた）　怜士（れいじ） | 中学２年生 |
| 林（はやし）　志優（しゆう） | 中学２年生 | 林（はやし）　莉央（りお） | 中学１年生 |
| 福知（ふくち）　芽衣（めい） | 中学３年生 | 溝口（みぞぐち）　奏（かな） | 中学１年生 |
| 宮田（みやた）　周一郎（しゅういちろう） | 中学１年生 | 矢吹（やぶき）　佳穂（かほ） | 中学２年生 |

## 被爆地派遣行程

| ８月５日(土) | | ８月６日(日) | | ８月７日(月) | |
|---|---|---|---|---|---|
| 時間 | 行程 | 時間 | 行程 | 時間 | 行程 |
| 7:30 | 東京駅出発 | 6:50 | ホテル出発 | 8:00 | ホテル出発 |
| 11:27 | 広島駅到着 | 8:00 | 平和記念式典 | 10:00 | 福山誠之館高等学校歴史資料室 |
| 14:00 | 平和記念公園ボランティアガイドツアー | 10:00 | ひろしま子ども平和の集い | 11:15 | 福山城公園 |
| 16:00 | 平和記念資料館 | 13:30 | 本川小学校平和資料館 | 14:41 | 福山駅出発 |
| 19:00 | １日目終了 | 15:00 | 意見交換会 | 18:15 | 東京駅到着 |
| | | 18:00 | 灯篭流し | 18:30 | 解散 |
| | | 20:00 | ２日目終了 | | |

# 活動紹介

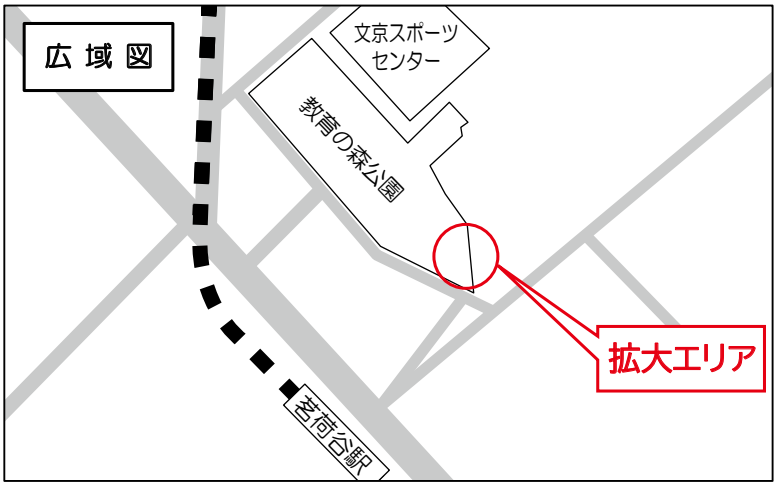
平和特派員の活動の様子をご紹介します

# 被爆樹木植樹

**実施日　令和５年７月15日(土)**

文京区非核平和都市宣言４０周年を記念し、広島から譲り受けた被爆樹木二世のアオギリの苗木を教育の森公園に植樹しました。植樹式では、区内在住中学生から選ばれた平和特派員が成澤文京区長と土入れを行いました。

## 場所　：　文京区立教育の森公園



# 植樹式

①区長あいさつ

②平和特派員を代表し、永井さんが平和の誓いを行いました。

③全員で順番に土入れを行いました。

④土入れ時のアオギリの様子

## 被爆樹木

被爆樹木は、原爆の投下前から生えており、原爆の惨禍に遭いながらも、生き抜いた樹木です。広島市は、爆心地から概ね半径2キロ以内、長崎市は半径4キロ以内で被爆した樹木を被爆樹木として登録・認定し、保存・継承に取り組んでいます。

### 広島のアオギリ・・・

旧広島逓信局の中庭で被爆し、爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼きえぐられましたが、翌年には青々とした芽を吹き返しました。昭和48年に広島平和記念公園内に移植されました。

出典：平和首長会議『被爆樹木二世を世界に一種や苗木を育てながら平和への思いを共有しましょう一』2022年4月

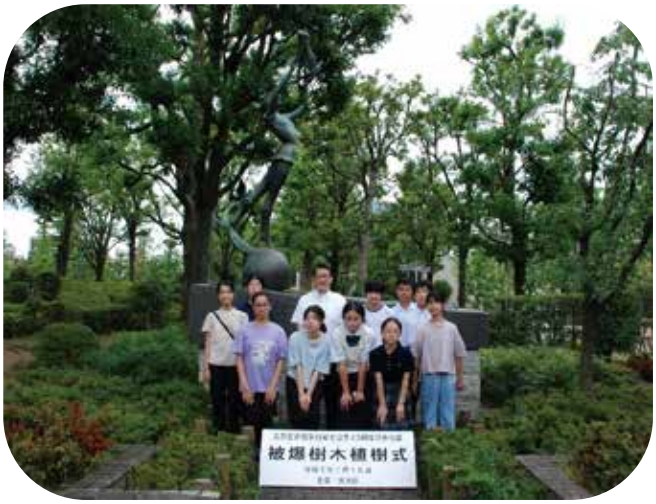
⑤植樹場所は、教育の森公園半円池のお隣です。

⑥土入れと行う成澤文京区長と平和特派員

⑦土入れを行う成澤文京区長と平和特派員

⑧土入れを行う成澤文京区長と平和特派員

⑨最後に平和の天使像の前で記念撮影を行いました。




⑩元気に成長しています。

1　班：永井さん、長田さん、成澤区長、林さん、栗木さん

2　班：岩﨑さん、成澤区長、林さん、顧さん

３　班：近見さん、成澤区長、宮田さん、溝口さん

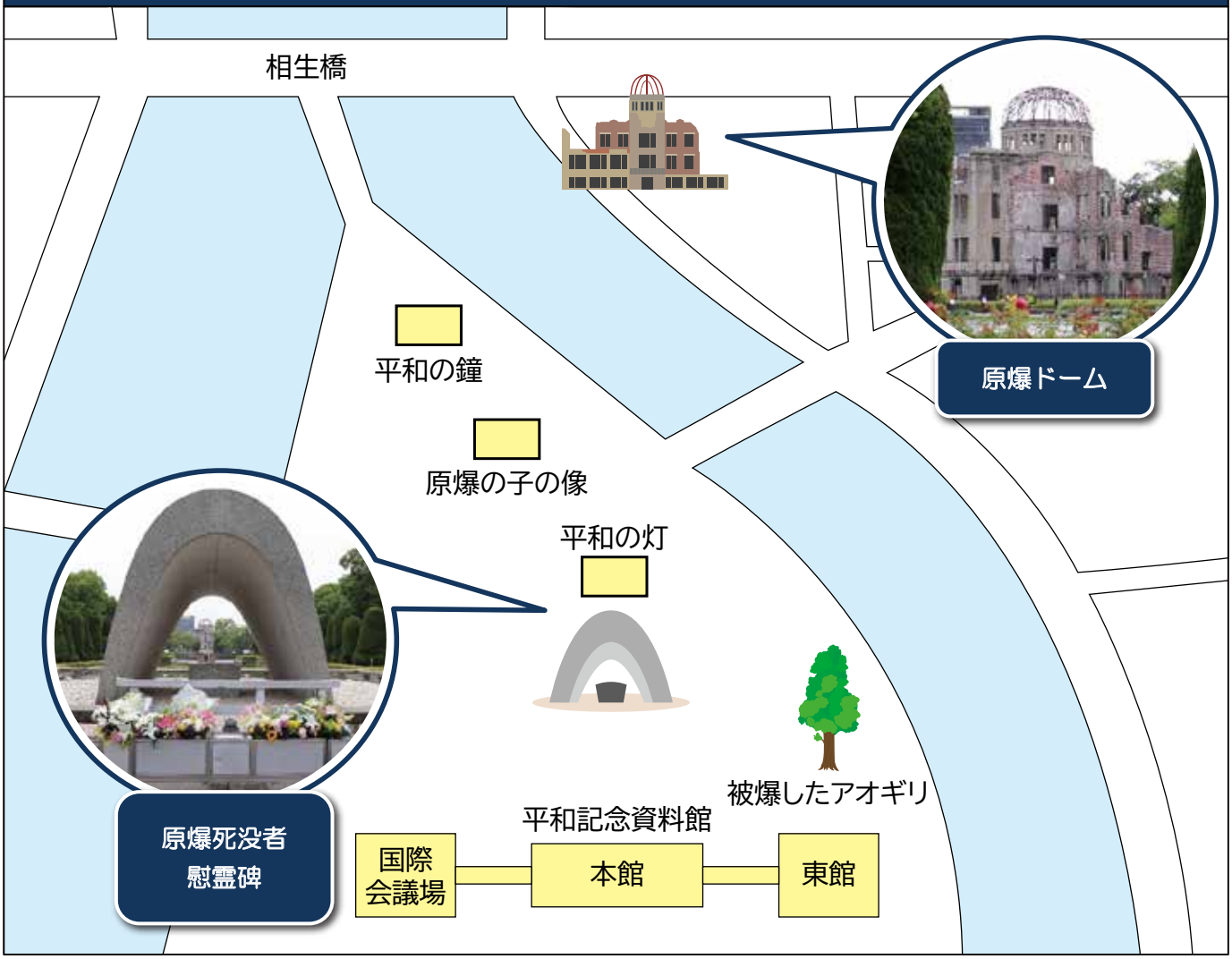
平和の天使像前

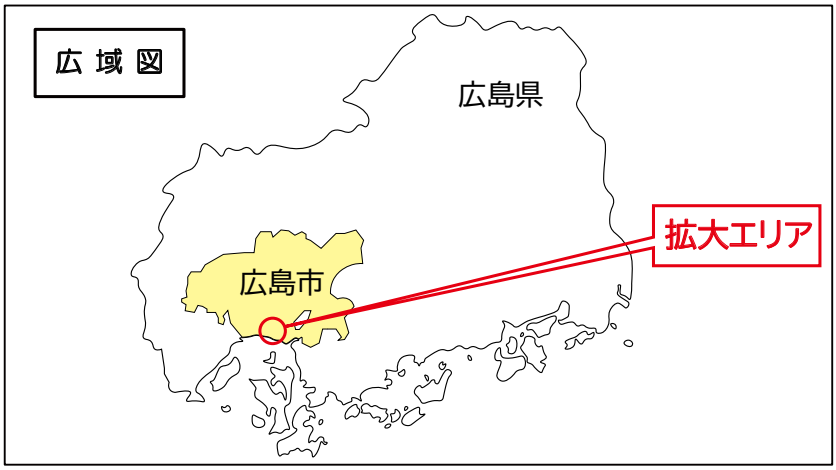
# 被爆地派遣（１日目）

**実施日　令和５年８月５日(土)**

被爆地派遣１日目は、東京駅から新幹線で広島に向かい、平和記念公園と平和記念資料館を見学しました。平和記念公園では、広島市観光ボランティアガイドの説明を受けながら原爆ドームや慰霊碑等を巡り、平和記念資料館では、当時の写真や実物資料から原爆の実相を学びました。

## 場所　：　広島県広島市



①東京駅から新幹線で広島に向かいました。

②最初の訪問先は、平和記念公園です。

③広島観光ボランティアガイドの案内で平和記念公園を巡りました。

④成澤文京区長も平和特派員と一緒にガイドツアーに参加しました。

## 平和記念公園

平和記念公園は、旧太田川（本川）が元安川と分岐する三角州の最上流部に位置し、原爆死没者の慰霊と世界恒久平和を祈念して開設された都市公園です。

この場所は、江戸時代から昭和初期に至るまで広島市の中心的な繁華街でしたが、昭和20年8月6日に人類史上初めて落とされた一発の原子爆弾により、一瞬のうちに破壊されました。被爆後、昭和24年8月6日に公布された「広島平和記念都市建設法」に基づき、爆心地周辺を恒久平和の象徴の地として整備するため、昭和25年から平和記念公園及び施設の建設が進められ、昭和30年に完成しました。

公園内には、原爆ドーム、広島平和記念資料館、平和の願いを込めて設置された数々のモニュメント、被爆したアオギリなどがあります。

出典：広島市ホームページ『平和記念公園について』https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/hiroshima-park/7480.html

⑤原爆ドーム

⑥原爆ドームの説明を聞く平和特派員

⑦相生橋の説明を聞く平和特派員
原爆投下は相生橋を目標にしたといわれています。

⑧皆さんガイドの方のお話を熱心に聞いていました。

## 原爆ドーム

原爆ドームのもとの建物は、チェコ人の建築家ヤン・レツルの設計により、大正４年広島県物産陳列館として完成しました。その後、広島県立商品陳列所、広島県産業奨励館と改称し、戦争末期の昭和 19 年からは内務省中国四国土木出張所、広島県地方木材株式会社など官公庁等の事務所として使用されていましたが、爆心地から約 160 メートルの至近距離で被爆し、爆風と熱線を浴びて大破しました。

ほぼ被爆した当時の姿のまま立ち続ける原爆ドームは、核兵器の惨禍を伝えるものであり、時代を超えて核兵器の廃絶と世界の恒久平和の大切さを訴え続ける人類共通の平和記念碑です。

人類史上最初の原子爆弾による被爆の惨禍を伝える歴史の証人として、また、核兵器廃絶と恒久平和を求める誓いのシンボルとして平成８年 12 月「世界遺産条約」に基づきユネスコの世界遺産一覧表に登録されました。

出典：広島市ホームページ『原爆ドームについて』https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/atomicbomb-peace/163434.html
広島平和記念資料館ホームページ『平和記念公園・周辺ガイド』http://www.pcf.city.hiroshima.jp/virtual/map/

⑨平和の鐘の説明を聞く平和特派員

⑩平和の鐘には「世界は一つ」を象徴する国境のない世界地図が彫られています。

⑪原爆の子の像

⑫原爆の子の像の説明を熱心に聞く平和特派員

⑬原爆の子の像周囲の折り鶴ブースには、数多くの折り鶴が捧げられています。

⑭平和の灯（ともしび）

⑮原爆死没者慰霊碑（広島平和都市記念碑）

⑯原爆死没者慰霊碑の説明を聞く平和特派員

⑰原爆死没者慰霊碑へ黙祷を行いました。

⑱被爆したアオギリ

⑲教育の森公園に植樹した被爆樹木二世のアオギリは、この木の種から育った苗木です。

⑳平和記念資料館を見学する平和特派員

原爆ドーム前

被爆したアオギリ前

# 被爆地派遣（２日目）

**実施日　令和５年８月６日(日)**

広島派遣２日目は、朝から平和記念式典へ参列しました。式典終了後には、広島国際会議場で開催された「ひろしま子ども平和の集い」に参加し、被爆体験者講話や同世代の平和の取組に関する発表を聞きました。

午後は、本川小学校平和資料館を見学後に、グループに分かれ意見交換会を行いました。夜には、原爆ドーム前の元安川で行われた「灯篭流し」に参加し、平和への祈りを捧げました。

# 平和記念式典～ひろしま子ども平和の集い

①令和５年平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）に参列しました。

②式典会場の様子

③平和記念式典には、成澤文京区長も出席しました。

④式典に参列する平和特派員

⑤広島市が主催する青少年平和文化イベント「ひろしま子ども平和の集い」に参加しました。

⑥被爆体験者の講話や各地の学校や青少年団体による平和の取組に関する発表を聞きました。

①路面電車で本川小学校平和資料館へ

②資料館は、広島市立本川小学校に隣接した場所にあります。

③本川小学校在校生による歓迎看板

④原爆の被害の跡が残る館内には、様々な資料が展示されています。

## 本川小学校平和資料館

本川小学校は、昭和 20 年 8 月 6 日の原子爆弾投下の際、爆心地にもっとも近い学校として大きな被害を受けました。校舎は外部を残して全焼、壊滅し、校長ほか 10 名の教職員と約 400 名の子どもたちの尊い生命が一瞬のうちに奪われました。

資料館は、昭和 3 年に広島で初めて建てられた鉄筋コンクリート 3 階建ての校舎の一部で、原爆の被害を受けた状態をそのまま残し被爆の「証」として保存されています。

資料館内の資料室には、被害の様子を写した写真をはじめ、被爆した遺物などが展示されており、資料の一つ一つに多くの人々の悲しみや願いが秘められています。

出典：広島市立本川小学校『本川小学校平和資料館パンフレット』

⑤原爆慰霊碑に献花を行いました。

⑥献花を行う平和特派員

⑦献花を行う平和特派員

⑧献花を行う平和特派員

⑨献花を行う平和特派員

⑩献花を行う平和特派員

# 意見交換会

①全ての見学を終え、平和や戦争についてグループごとにディスカッションを行いました。

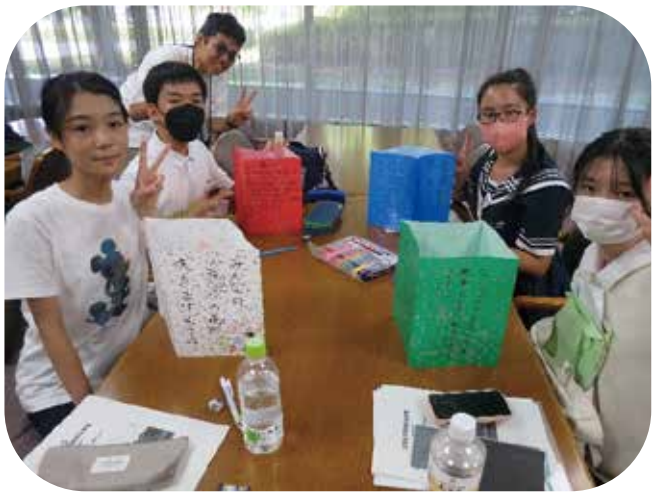
②グループ内の意見や考えを最後に代表者が発表し全員で共有しました。

③意見交換会の後は、灯篭流し用の色紙の作成を行いました。

④どの灯篭も力作ぞろいです。

⑤完成した灯篭と平和特派員

⑥完成した灯篭と平和特派員



# 灯篭流し

①元安川の灯篭流し会場へ

②会場は、原爆ドーム対岸にある親水護岸です。

③元安川へ作成した灯篭を流します。

④それぞれが想いを込め、灯篭を流しました。

⑤元安川を流れる灯篭

⑥灯篭流し後に全員で記念撮影

令和5年8月6日 広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式
AUG. 6. 2023 HIROSHIMA PEACE MEMORIAL CEREMONY

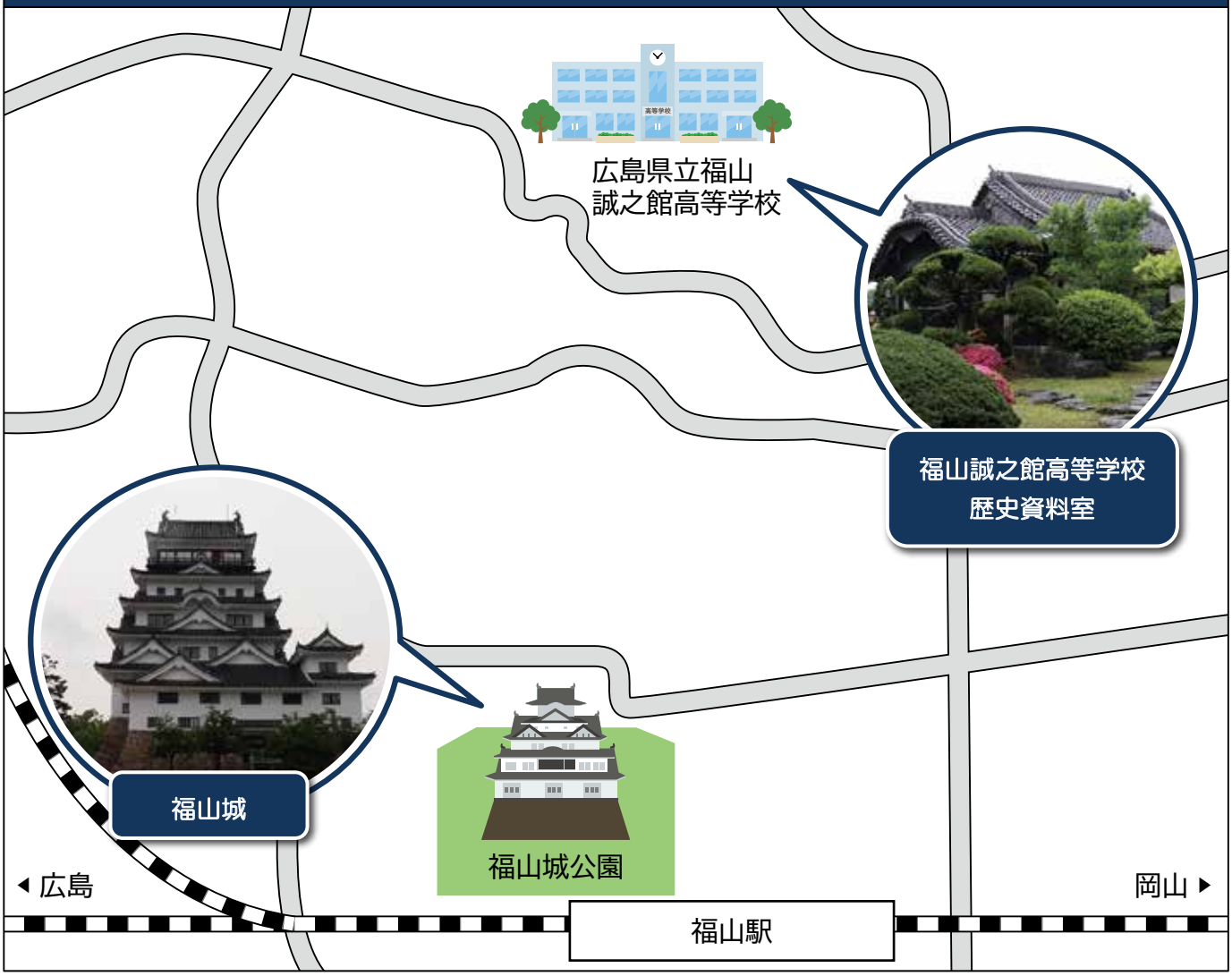
平和記念式典会場入口

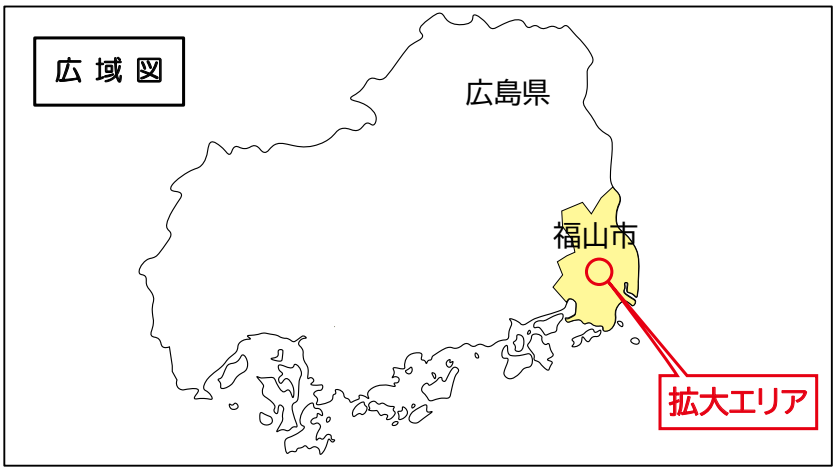
# 被爆地派遣（３日目）

**実施日　令和５年８月７日(月)**

被爆地派遣３日目は、文京区ゆかりの都市である広島県福山市で歴史学習を行いました。福山誠之館高等学校歴史資料室や福山城公園を見学し、文京区と福山市の歴史や文化のつながりについて学びました。

## 場所　：　広島県福山市



## 福山誠之館高等学校歴史資料室

①資料室は、広島県立福山誠之館高等学校敷地内にあり、福山市等の貴重な資料が保管されています。

②同敷地内にある誠之館記念館は、国の登録有形文化財に指定されています。

③誠之館高校同窓会の方に誠之館記念館を案内していただきました。

④藩校「誠之館」の設立等についてご説明いただきました。

### 広島県福山市

福山市は、温暖な瀬戸内海の中央に位置しており、潮待ちの港として古くより栄えた鞆の浦や、鎌倉時代に明王院の門前町として栄えた草戸千軒などを擁する備後地方最大の都市です。

昭和20年の大空襲によって市街地の約8割が焼失した中、現在のばら公園に近隣の住民がばらの苗1,000本を植えて人々へ希望を与えたことから「ばらのまち」と呼ばれています。

⑤資料室では、実物資料等を見学しました。

⑥福山藩主阿部家や藩校誠之館から誠之館高校への沿革などをご説明いただきました。

⑦資料を見る平和特派員

⑧説明を聞く平和特派員

## 文京区と福山市のゆかり

文京区と福山市は、江戸時代を通じて備後国福山藩阿部家の中屋敷が文京区内にあったという歴史的背景をきっかけに、藩校「誠之館」が区立誠之小学校の由来となるなど、現在でもその繋がりが様々な形で受け継がれています。

文京区は、これまでも同市と事業協力を重ねてきましたが、両都市の友好親善をさらに深めるとともに、観光・産業・防災分野など多方面における協力関係を築くため、平成 30 年 3 月 20 日に「福山市と文京区との相互協力に関する協定」を締結しました。

# 福山城公園

①福山城は、徳川家康の従兄弟である初代藩主水野勝成によって築城されたお城です。

②福山市職員の方に福山城公園を案内していただきました。

③天守北側には防御力を上げるため鉄板が張られています。

④天守の鉄板について説明を聞く平和特派員

## 福山城と福山藩

徳川家康の従兄弟である初代藩主水野勝成は元和 5(1619)年、西国鎮衛の拠点として備後東南部・備中西南部の計 10 万石を得て、大和郡山より入封。元和 8(1622)年に福山城を築き、この地を福山と名付けました。水野家 5 代藩主の早世により、福山藩は一時天領(幕府直轄地)となり、その後元禄 13(1700)年に出羽国より松平忠雅が入封するも 10 年で転封。

宝永 7(1710)年、下野国宇都宮藩から阿部家初代藩主阿部正邦が入封し、以後 10 代正桓まで福山城は藩政の中心となりました。歴代藩主の中でも 7 代正弘は 25 歳の若さで老中に抜擢され、ペリーの来航、日米和親条約の締結といった開国問題を老中首座として指揮したことでも知られています。

出典：福山城築城 400 年記念事業実行委員会ホームページ『福山城 400 年博-FUKUYAMA CASTLE EXPO-』https://fukuyama400.jp/fun-fun-fukuyama/info-fukuyama-castle

⑤城郭内にある月見櫓（つきみやぐら）に移動し、さらに詳しく福山の歴史について学びました。

⑥説明を聞く平和特派員

⑦説明を聞く平和特派員

⑧説明の後半には、福山城クイズ大会も開催されました。

⑨クイズ大会中の平和特派員

⑩皆さん真剣で、クイズ大会はとても盛り上がりました。

福山城

## 福山～東京

①福山駅から新幹線で帰京します。

②３日間の被爆地派遣が終了しました。

# 平和特派員の報告

平和特派員が作成したレポートをご紹介します

# 核の無い平和な世界へ

岩﨑（いわさき）　寧々（ねね）（中学３年生）

今回の平和学習に参加し、私が特に印象に残っているのは、被爆者の方のお話です。

被爆者の方が、原子爆弾が落とされた後に暗くて何も見えない中、手足の感覚を頼りにがれきの山から脱出した経験、友達と協力して必死に逃げ回ったというお話、その途中で丸こげになった赤ちゃんを抱き、その赤ちゃんの名前を呼びながら歩き回っているお母さんの姿を見たというお話や、水を求めてくる人に水をあげたくてもあげられないという苦悩、そして原爆投下から時間がたった後も、いつ自分が被爆によって病気を発生してしまうのかという恐怖があったというお話を伺いました。

原子爆弾が落とされた時も、その後もどれだけ被爆によって苦しめられていたのか、と思うと胸が潰れる思いでした。実際にこの日本で78年前にこんなことが起きていたとは。自分の想像をはるかに絶するものですごく大きな衝撃を受けました。

また、被爆者の方は私たちに向けて、これらの体験談だけではなく、次のようなメッセージをくださったことも忘れられません。

生きたくても生きられずに戦争で命を落とした人がいる一方で、現代では自ら命を絶ってしまう人が後をたたない、それはとても悲しいことでありもっと自分の命を大切にしてほしいと。

現在も世界では戦争はなくならず悲しく辛い思いをしている方々がたくさんおられます。また、原子爆弾もいつ使われてもおかしくないという状況にあります。

なぜ武力による争いは無くならないのか、互いに傷つけ合い、その家族や周囲にも大きな悲しみをもたらす戦争にどれだけの意味があるのか。そこまでして自己の利益を追及し得られる物は何なのか、それよりも一つ一つの命を守ることの方がはるかに大切なのでは無いでしょうか。戦争の問題は背景に複雑な事が絡み合い、これを解決するのは決して容易な事では無いとは思います。

しかし、私はお互いに多様性を認め合い、対話によって平和的な解決を模索し続けていくことが必要と考えます。そのために私は普段から、色々な経験をつみ、人と接する中であらゆる視点を持ち、正しく広く考えて、お互いを理解し合うことを意識して生活することを心がけたいと思います。被爆者の方から直接お話を伺えたこの機会に感謝し、今回得たこと、考えたことを広く周囲に伝えていかねばと責任を感じました。

１人の力はわずかですが、少しずつでもそういった意識が周囲に芽生えることで、やがてより多くの人に広がり、平和な世界の実現へとつながる事を強く願っています。

# 原爆の日に広島を訪れて

栗木（くりき）　小斐（さや）（中学１年生）

私は、今回広島に行って思ったことがいくつかあります。それは、今の生活が戦時中に比べてあまりにも平和だということです。そう思ったのは、８月５日に行った平和記念資料館でした。

当時自分と同じくらいの年齢の子が、当たり前のように工場へ働きに出たり、建物疎開に駆り出されたり、学校の授業の一部では男子は銃剣術などの武道を、女子は薙刀や看護などの訓練が取り入れられていました。

1945 年８月６日もいつもと変わりない日でした。被爆したときの服や遺品を見てみると、服は布で修復されていたり、靴のサイズが小さかったり、中敷きのところが何重にも重なっているものが。その遺品たちを見ていると私はとても虚しい気持ちになりました。

自分はよくわがままを言います。けれど戦時中の子どもたちは、毎日を過ごせるか不安になって怯えていました。そのことを考えると、自分の中の後ろめたさと申し訳無さが、湧き上がってきます。自分と同じくらいの年齢の子たちが、建物疎開など今では考えられないようなことをしていて、大変な思いをしてきたのだと思いました。

「平和とは」ということをこの作文で改めて考えたとき、私は８月６日の平和記念式典で広島市にある小学校の６年生が、読み上げていた平和への誓いが、脳裏に浮かびました。

日常にある平和は、悪口を言わないことや喧嘩をしないことであり、世界の中での争いや戦争がないことではないかと、平和への誓いにありました。私も、そうだと思います。

平和記念式典に関連付けて、驚いたことがありました。それは、平和記念式典中にあった戦争に関する拡声器のデモの声について、アンケートがあったことです。

もう一つ思ったことは、広島が東京からとても遠いことです。

東京駅から広島駅まで新幹線で行くとほぼ4時間もかかります。日本という同じ国のはずなのに、東京駅から広島駅までの時間が長くて驚きました。そのくらい遠いということに驚くとともに、遠く離れていることで、私のように広島や原爆のことをよく知らない人はたくさんいると思います。日本に住んでいても行ってみないとわからないことがあると思いました。

私は、小学校低学年や中学年のころ、戦争に対してあまり興味がありませんでした。しかし、５ 年生の頃に学校にあった『はだしのゲン』を読んで戦争に対して興味を持ちました。だから、今回学んだことを平和特派員として、同じ学校の人など同世代の人たちに対して知ってもらいたいと思いました。

# 広島爆心地レポート

顧（こ） 弈煊（いしぇん）（中学１年生）

1945 年 8 月 6 日、広島へ原爆が投下された。当時の広島市の人口は、35 万人であったが、14 万人の命を奪った。中学1年生以上の生徒が建物疎開作業に動員され、このうち 7,200 人の方が亡くなった。原爆の犠牲によりいまだに引き取り手のない遺骨は7万人ほどいるという。

原爆の原理は、プルトニウム原子などの原子核に中性子をあて、人工的に壊すと、大量のエネルギーが放出され、この核分裂を利用した兵器が原子爆弾である。

広島の原爆のさく裂後に発生した火球の表面温度は、約 0.2 秒後にはセ氏 7,700 度に達し、放出された熱線は、さく裂後 0.2 秒から 3 秒までの間に、地上に強い影響を与えた。爆心地周辺の地表面の温度はセ氏 3,000 から 4,000 度にも達し、爆心地から半径 3.5 キロメートルまでの地域にいた人も火傷を負った。特に、約 1.2 キロメートル以内で、さえぎるもののないまま熱線の直射を受けた人は体の内部組織にまで大きな障害を受け、そのほとんどが即死、または数日のうちに死亡したとされている。

被爆の影響は恐ろしい。

爆心地から 1,500 メートル離れた自宅にいた吉川清さんは、被爆により背中と両腕の皮膚は焼けただれ、垂れ下がった。その後、火傷のあとはケロイドとなり激しい痛みを伴ったという。

また、母親のお腹の中で被爆した人もいる。「原爆小頭症」といい、妊娠初期の胎児が大量の放射線を浴びることで引き起こされる。 頭囲が小さく、知能や身体に障害を伴って生まれる場合があるされている。放射線は、原子核が壊れる時に発生する高速で動く粒子や大きなエネルギーを持った電磁波であり、物質を通り抜ける性質がある。

また、原爆は爆発により巨大な力をもった衝撃波も発生させた。衝撃波と爆風によって、爆心地から半径 2 キロメートルまでの地域では、ほとんどの建物が破壊された。崩壊しなかった建物でも、窓は全部吹き飛ばされ、無数のガラスの破片と化した。

# 核抑止論ではなく核廃絶を！

近見（ちかみ）　優衣（ゆい）（中学２年生）

“核兵器はこの世にいらない！“

１番心に残った場所は本川小学校平和資料館です。ここは広島市内にある被爆した小学校です。本川小学校平和資料館の地下に降りてみると実際に被爆して真っ黒に焦げた壁がありました。電熱器のコードが全て切れて爆弾のかけらで壁がえぐれていました。そこは真っ暗で音もなく、その異様な雰囲気がとても怖かったです。

また、被爆翌年の小学校の写真を見ると、松葉杖をついた先生が授業をしていました。生徒も先生も服がボロボロで机や椅子の数も明らかに足りていませんでした。本川小学校で被災をした410人のうち生き残ったのは女子小学生１人と教員１人だった事を知り驚きました。何も罪のない子供たちがたくさん亡くなり戦争は無慈悲だと痛感しました。

原爆ドームは近くで見ると真っ黒で脆かったです。東京で戦争について学んでいたときは本や資料から戦争の悲劇を想像していただけでしたが、原爆ドームの建ち様から原爆の残酷さがとてもよくわかりました。

平和記念公園には韓国人慰霊碑がありました。ガイドさんの話では広島の原爆で亡くなったのは日本人だけでなく、捕虜になっていたアメリカ人やアジア人もいたそうです。原爆は人種や性別も関係なく全ての人の命を一瞬で奪ってしまうことに衝撃を受けました。

子どもの集いでは被爆者のお話を聞きました。彼女は中学生の時に作業所で被爆し、多くの同級生の遺体を運んだと話していました。生きたくても生きられなかった学生達が多くいたことがわかり、胸が痛みました。最後に「自分の命を大切にしてください」と語っていたのがとても心に残りました。

広島平和記念資料館では死の斑点が出ている人や火傷をした人々の写真、生き残った人々の証言が多くありました。たった一発の原子爆弾で広島の人々が長く苦しみ続けたことがわかり非常に胸が痛みました。

広島平和記念式典に参列した時には、核抑止論ではなく、核廃絶の道を切り開いていくべきだという広島県知事の強い憤りを感じました。

原爆ドーム前にある元安川は原爆が落とされた時、沢山の人々が飛び込み、そこで亡くなりました。その元安川で、私たちは灯籠流しをしました。平和への願いを書いた灯籠が川を流れていくのを見て、広島は原爆の悲劇から復興し、平和になったと思いました。

しかし、平和記念公園では沢山の団体や宗教が核廃絶への大規模なデモ行進をしていて広島もまだ平和の道半ばであると実感しました。まだ世界には12,500発もの核兵器があります。

広島で被爆の実態を見てどんなことがあっても核廃絶を成し遂げなければならないと強く思いました。だからこそ、私たちは核抑止論ではなく、核廃絶を強く訴え続けていくことが大切だと思います。

# 平和を保ち続ける努力を

永井（ながい）　悠希子（ゆきこ）（中学３年生）

ロシアによるウクライナ侵攻、核兵器の使用をちらつかせるプーチン大統領、それに呼応するように国防費を増強する国々…平和なはずの日本に住んでいる私でも何となく不安になるような社会情勢のなか、私は文京区平和特派員として被爆地ヒロシマを訪れた。

初日の８月５日は、原爆資料館と平和記念公園を見学。実は今年５月の修学旅行で一度見学してはいたのだが、その時は怖くて直視できなかった被爆者の痛ましい写真の数々も「私は平和特派員なんだ」という責任感を持って、しっかり見学し、改めて原爆の惨さを実感した。翌８月６日、78 年前と同じように快晴の朝、前日資料館で見た黒焦げの弁当箱やボロボロにちぎれた衣服、ゆがんだ三輪車の持ち主たちの苦しみに思いを馳せながら平和記念式典に参列した。驚いたのは参列者の数だ。外国人も多い。100 ケ国以上の国の人々が参列していることを知り、こんなにたくさんの人々が平和を望んでいるという事実に安堵しながらも、それなのになぜ戦争はなくならないのか？なぜ核兵器はなくならないのか？という矛盾も感じた。

最も印象に残ったのは、式典のあと拝聴した梶本さんの被爆体験のお話だ。満州事変の年に生まれて、今の私と同じ15歳の時に被爆したという梶本さんの体験談は聞いているだけで辛く、凄惨なお話だった。自分自身も大けがを負っているなかで、たくさんの死体を越えながら荒れ果てた街をさまよい歩き、焼けただれた姿で水を求める人々に戸惑ったことを「人間の心をなくした」体験として切々と語ってくださった梶本さん。もし私が梶本さんだったら、こんな辛い体験は一日も早く忘れたい。すっかり忘れて何も話したくないと思うのではないかと考えると、感謝の気持ちでいっぱいになる。梶本さんのお話の内容とともに、平和を愛するあの優しく強いまなざしを私は決して忘れないと思う。

最後に梶本さんはこう仰った。

「戦争は忘れた頃にやってくる。忘れられた戦争は繰り返される。これからの日本が平和を保ち続けることができるかどうかは自分たち次第。知恵を出して、行動を起こしてください。」

私にできることは何だろう。今すぐにできることは、今回の経験を家族や友達に話し、平和について語り合うことだ。今起きている諸問題について、常に興味を持ち、多面的に深く考えようと意識することも大切だろう。平和な未来はただ待っているだけではやってこないということを心に刻み、平和を保つための努力を怠らない人間でありたいと思った。

# 核兵器のない平和な未来へ

長田（ながた）　怜士（れいじ）（中学２年生）

私はこの夏に文京区の初代平和特派員になることができました。春に募集記事をみた頃は、連日ニュースで日本から遠く離れている国々での戦争の悲惨な映像が流れていて、きちんと平和について学んでみようと思いチャレンジすることにしました。一次選考の作文は、中学受験の社会の勉強で核保有国が多く、その国々が保有している数に驚き、また恐ろしくなったこと、使わせてはいけないことを書きました。二次の面接は、緊張しましたが質問に対して自分なりにがんばって応えることはできたと思います。無事に合格の手紙がきた時はとてもうれしかったのを覚えています。

平和特派員として、最初の活動は広島より譲りうけた被爆樹木二世アオギリの苗木の植樹式でした。この苗木が無事に大きく成長して文京区の平和のシンボルになってほしいです。

８ 月に入りいろいろな中学校の平和特派員メンバーと、平和記念式典、ひろしま子ども平和の集い、意見交換会など平和学習へ参加するために広島へ向かいました。

広島駅に到着してから平和公園へ行き、今は整備されている綺麗な公園ですが、以前は賑やかな街で人々の生活、暮らしがあったとボランティアガイドさんからお話がありました。

爆心地にとても近い原爆ドームも教科書でみるよりとても大きかったですが、残っている一部の中は崩れて黒く焦げているのが見えました。

平和記念資料館では８月６日に広島に何が起こったのか被爆者の遺品や被爆の惨状を示す沢山の写真が展示されていました。大火傷により皮膚が垂れてしまっている人、自分と同じ中学生の遺品でボロボロに溶けている制服…小学生の時に調べて学習したこともあり、写真は見たことがありましたが、目の前で実物をみていると自分もその状況にいたかのようにも感じられ、胸が苦しく悲しくなりました。

また、被爆前後の広島の市街地の焦土と化した立体模型がありました。旧中島本通り、現在の平和記念公園周辺は沢山の家や建物がびっしり並んでいました。投下後は廃墟となり、全て燃え尽きていました。一瞬にして人々の生活奪った原爆の恐ろしさが改めて伝わりました。

次の日の平和記念式典では、文京区の代表という気持ちを持ち、早朝から緊張しながらも参列しました。沢山の国々から大勢の人が参列していたので関心の高さに驚きました。

ひろしま子ども平和の集いでは、全国の中高生の平和への取り組みを聞くことができました。他の学校での取り組みは素晴らしく、自分では思いつかないようなものが沢山ありました。また、英語が好きなのでユースピースボランテイアがとても印象に残りました。

今回は広島へ行き被爆者のお話しも直接聞く事ができました。高齢の方が多く、これからは私たちがヒロシマに起きた惨状を伝え続け、二度と核を使わせてはいけないと強く思いました。

今後、英語でスピーチもできたらより多くの国々の人々にも伝わると思うので、もっと勉強して、いつか文京区から世界へ平和への願いや広島の心を発信できたらと思います。

# 人類の平和と繁栄のために

林（はやし）　志優（しゆう）（中学２年生）

1. はじめに

文京区平和特派員として広島に派遣され、常に平和を考え続けた 3 日間を過ごした。本事業に参加するきっかけとなった東京で、戦争のことをおぼろげに捉えるのではなく、はっきり実体を持った戦争の悲惨さを体験することができた 3 日間であった。

2. 原爆ドーム、広島平和記念資料館

1 日目に原爆ドームに行ったが、爆弾 1 発でこれ程まで破壊されたことに衝撃を受けた。ガイドの話を聞くと、爆発直後、地上は 3,000 度にもなったという。また、爆風も 1 ㎡当たり 11t だ。そんな強さの爆風が上空から降り注いだ。人は即死、丈夫な建物でさえ高温な熱波と爆風で一瞬にしてつぶれた。この話を聞いた時、とても残酷だと思った。

広島平和記念資料館では、その悲惨さを写真や映像として学ぶことができた。原爆にさらされた服は燃えてぼろぼろになり、煉瓦さえも変色してしまう。熱波や爆風からの即死を免れた人達に、放射線の脅威が容赦なく降り注いだ。放射線の中でも特にγ線は地上に残留し、広島の惨事を聞いた人達が、家族を探すために来た時、γ線が人々の体内に取り込まれた。この放射線は後に白血病やがんの原因となってしまう。このように、人類は発明したものを正しく利用せず、人を殺す兵器に利用してしまったのだ。

3. 平和記念式典、本川小学校平和資料館

2 日目は、平和記念式典に参加した。式典には数えられない程の人がおり、国や県、世界の重要な人物の言葉を聞く事が出来た。広島の惨劇が風化されないよう毎年式典を開き、亡くなった人を弔っている。僕は、この式典の事は忘れられないだろう。

本川小学校は爆心地から 410mにあり、原爆にさらされた建物内部の状態を当時のまま残している貴重な資料館で、実際に中に入って間近で見られたことが大きかった。建物内部の壁も原爆の熱波により焼けており、窓の周りは爆風で跡形もなかった。原爆の衝撃の大きさを理解できた。

4. まとめ

原爆は 14 万人を殺した凶悪な兵器である。核兵器は廃絶しなければならないが、未達成な難しい国際問題である。核兵器を作り、他国とのパワーバランスを作って安定する国ではなく、各国で対話し、核兵器がなくとも、人々が安心して暮らせる世の中を作っていかなければならないと心から思った。今後学んだ経験を活かし、原爆の危険さを沢山の人に共有して、身近な所から平和の輪を広げていきたい。

5. 謝辞

本事業を通じて、今までの固定観念が崩れて、新しい考えを持つことができた。ただ核が危険というだけではなく、今までの人類の歴史からも考察すること、また、広島で平和について深く考えることができた。これは一生忘れられない程、強烈な経験だった。本事業を企画し、選んで下さった文京区総務課の職員の方々、広島でお世話になった関係者の方々にとても感謝している。ありがとうございました。

# 平和特派員として学んだこと

林（はやし）　莉央（りお）（中学１年生）

私が今回この事業に参加したきっかけは、今年 5 月に G7 サミットが広島で開催され、世界で唯一の被爆国である日本の中学生として、何かできることをしたかったからです。そのためには、まず原子爆弾や戦争についてよく知ることから始めようと思い、募集ポスターを見て応募しました。

今回訪れた場所で特に驚き、記憶に残ったところは 3 つあります。

1 つ目は、平和記念公園内にある広島平和都市記念碑の石室です。原爆によって亡くなり、身元がわかっていない方の骨が入っています。原爆投下から 78 年たった今でも身元がわかっていない骨が多くあること、毎年、原爆死没者名簿に新たな名前が載ることは初めて知りました。

2 つ目は、平和記念資料館に展示されていた中学生の遺品です。原子爆弾によって、大人だけではなく、たくさんの子供の命が奪われたことは以前から知っていましたが、子供が建物疎開の手伝いをしていたことに衝撃を受けました。手伝いに行くために持って行っていた昼食用のお弁当や制服、ゲートルなど、劣化した様子がわかり、現在も残っていることに驚きました。

3 つ目は、全国各地にとどまらず、世界中から集められた千羽鶴です。広島市では千羽鶴の再生紙を卒業証書に使用していることで、原子爆弾の恐ろしさを次の世代も伝えていく、そんな思いを感じました。更に、テレビや教科書の写真などでよく見ていた原爆ドームを実際に自分の目で見た時、その迫力にとても驚きました。それと同時に、原子爆弾の威力の凄まじさも伝わってきました。

最後に、広島に行く機会を与えてくださり、施設を見学したり、式典に出席したりと、貴重な体験をさせていただいた文京区平和事業担当の皆様、被爆者として講話をしてくださった方、ツアーの説明をしてくださった方、その他にも 3 日間活動を支えてくださった皆様、ありがとうございました。核兵器が不要な世の中にしていくため、日本の中学生としてできることをしていきます。

# 伝えていくことの大切さ

福知（ふくち）　芽衣（めい）（中学３年生）

「生きてほしい」

被爆者の梶本淑子さんは私たち中高生にそう語りました。

1945 年、昭和 20 年 8 月 6 日 8 時 15 分、快晴の広島で突然原爆が投下されました。原爆は上空約 600m で炸裂し、人々に爆風、熱線、放射線を浴びせました。その年の年末までに約 14 万人が亡くなったと推定されています。文京区の人口は約 23 万人であるため、区民の半分以上が亡くなることに相当します。

私は広島への派遣事業を通して、主に 2 つのことを学びました。

1 つ目は「原爆の悲惨さについて」です。1 日目は平和記念公園で広島市観光ボランティアガイドの方による説明を聞きました。そこで衝撃を受けたのは、横浜、東京湾などの 18 か所が原爆投下の候補地となっていたことです。もし日本が降伏しなかったら、他の候補地にも原爆が投下される恐れがありました。
今、当たり前のように暮らしている東京も放射能にさらされていたかもしれないと考えると恐ろしいです。

ガイドツアーでは、原爆ドームも訪れました。原爆ドームは「同じ過ちを二度と繰り返さない」という強い願いから、負の遺産として世界遺産に登録されました。1966 年に永久保存が決まってから何度も工事をし、被爆当時の状態に近いまま保存されています。

その後訪れた平和記念資料館では、目を背けたくなるほど悲惨な資料を含め、被爆者の遺品などが展示されていました。中には中学生で被爆して亡くなった方の遺品も展示されており、改めて原爆の悲惨さを感じました。

2 つ目は「平和の尊さについて」です。2 日目には平和記念式典に参列しました。印象に残ったのは、子ども代表の「平和への誓い」です。「生き残ってくれてありがとう。」という言葉が胸に刺さりました。私たちの生活は、命を繋いでくれた人がいるからこそ成り立っていると実感しました。

ひろしま子ども平和の集いでは、被爆者の梶本さんのお話を聞きました。梶本さんの言葉により私は、これまでよりも一瞬一瞬を大切に生きようと心に決めました。

また、ひろしま子ども平和の集いでは、中高生が行う平和の取組発表も聞きました。中高生が平和の啓発のために尽力していることを知り、私もこれから原爆のことを伝えていきたいと思いました。

以上 2 つのことを広島で学び、これから原爆について主体となって周りに普及させていきたいと思いました。

私は 10 月に修学旅行で長崎に行き平和学習をします。そこで、同じ原爆投下地である広島と長崎を比べ、それをクラスメイトなどに伝え広げていきたいと思います。

被爆者の数は年々減少し、平均年齢も約 80 歳となりました。これから、被爆者がいなくなり、私たち若者が原爆について伝えていく番になります。広島を訪れ、被爆者の方の講演を聞いたという貴重な経験を無駄にしないよう、これからも平和の啓発に努めていきます。

# 私たちからスマイルの花を広げるために

溝口（みぞぐち）　奏（かな）（中学１年生）

８月５日、６日、文京区平和特派員として広島を訪れて平和について学びました。この文京区平和特派員活動の報告書で、私は、広島で気づかされたこと、未来の平和に向けて考えたことについて書きたいと思います。

平和記念公園で、ガイドの方に案内してもらった中で、「原爆ドームは、もとから『原爆ドーム』という名の建物ではなかった」ということを聞きました。その言葉が強く印象に残っています。原爆ドームは、原爆が投下される前は産業奨励館という建物で、手回しオルガンやステンドグラスがあったところだと聞きました。

あのときたった一瞬で、今まであった、家族と一緒に過ごせ、友人と遊び、仲間と勉強できるような生活がなくなり、大切な家族や友人を亡くした悲しみや原爆による体の苦しみに変わってしまいました。今、私たちが楽しく過ごせている日々も、当時はなくなってしまったことを感じ、今、楽しく過ごせている日々をずっとつないでいかなければならないことに気づきました。

また、ひろしま子ども平和の集いへ参加し、中学生、高校生たちの平和への取り組みの発表を聞きました。私と同世代の人が自ら平和への取り組みをしていることを知り、みんなが平和への強い思いを持っていることに心を動かされました。

この事業を通して感じたことは、自分たちの手で何かしていくことが平和をつくる一つのピースになるということです。

しかし、平和の実現にあまり関心のない人や、誰かが平和を実現するだろう、してくれるだろうと思っている人もいるかもしれません。このような考えに対して、私は、世界全体での平和は一つの国だけではつくることができないということと同じで、みんなが協力して少しずつでも前に進んでいくことが大事だと考えます。そのため、未来の平和を築き、みんなが笑顔になれるようにするためには、まず一人一人が過去を知り、平和の大切さに気づいていくことがみんなにとってできることだと思います。

これから、私は平和特派員のメンバーと共に、戦争を知らない同世代の人や私よりも小さい子どもを含めた多くの人に、この広島で学び、感じた戦争や被爆の実相を伝えていきたいです。そして、より多くの人と一緒に、未来の平和を考え、いまだこの地球に残る武力から苦しむ人々を助けたり、そのようなことが起こる現状を変えたりするためにはどのようなことができるのかということにも掘り下げていきたいです。

# 平和な世界にむけて

宮田（みやた）　周一郎（しゅういちろう）（中学１年生）

私は初めて広島を訪れました。平和記念公園はとても広く、ここはかつて繁華街で、それが一瞬にして吹き飛んでしまったことを知り、原爆の威力を想像して怖くなりました。3 日間の平和活動の中で、特に心に残ったことを、以下に3つあげあす。

① 原爆で多くの子どもが亡くなったということ

平和記念資料館は原爆の被害についてわかる多くの資料がありました。特に印象に残っているのは、焼けてボロボロになった子供の服の展示です。その子供たちは建物疎開作業中に被爆してしまったそうです。また、お話を聞いた被爆者の梶本椒子さんは 13 歳の時、工場で飛行機の部品を作っている時に被爆したそうです。戦争のための仕事をしている最中にたくさんの子供達が亡くなったということを知ってショックでした。

② 平和に対する決意の強さ

平和記念公園では多くの慰霊碑や記念碑を見学しました。その中でも、私は原爆死没者慰霊碑に刻まれた「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませぬから」という言葉を見て、原爆被害にあった人たちの平和に対する決意を知りました。また、平和記念式典での広島県知事のスピーチに感動しました。知事は核抑止論が破綻していることを核保有国の指導者に訴えかけました。

このような広島の決意があるにもかかわらず、今、ウクライナでその過ちが繰り返されそうになっていることをとても怖く感じます。

③ 多くの国の人が平和に関心を持っていること

平和記念式典には世界 100 カ国以上からの参列があり、若者の参加もとても多かったことに驚きました。想像以上に多くの人が原爆や平和について関心を持っているのだと知りました。私は将来留学したいと考えているので、留学した時にこの広島で起きた悲惨なことと、今の復興した広島を伝えていけるようになりたいです。

以上の３つに絞って挙げましたが、他にも本川小学校訪問や福山市訪問などこの事業でしか体験できない貴重な経験ができました。

地震や水害、感染症に対する不安や恐れは多くの人がはっきりと感じていると思います。戦争や原爆についても同じように自分ごととして考えられたら良いと思います。私は知識としては原爆が恐ろしいことは知っていましたが、広島を訪問してそのことを心から理解できました。そのため、一人でも多くの人が広島の街や平和記念資料館に足を運び、原爆や平和のことをもっと学んでもらえればいいと思いました。そのために、文京区平和特派員事業は今後も続いてほしいです。

私は、文京区の初代平和特派員として広島を訪問し、多くの貴重な体験や知らなかったことを学ぶことができました。この経験を踏まえて、学んだことをこれから出会う人たちに話し、共有していきたいと思います。また、同じ学びを共にした今回の平和特派員のメンバーと継続的に交流していきたいと思います。

# 被爆の地「ヒロシマ」

矢吹（やぶき）　佳穂（かほ）（中学２年生）

私は、今回の文京区平和特派員事業に参加して、平和の大切さを改めて考えることができました。

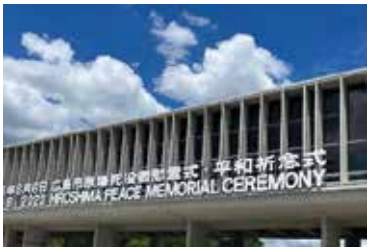
１日目に平和記念公園を訪れた時、私は「平和記念公園って広くてきれいだな」と漠然と思ったのですが、ボランティアガイドさんから、元々は大勢の人が住んでいた住宅街だったのだけれど、原爆が落ち焼け野原になったため戦争の悲惨さを忘れないようにと整備され公園になった、との話を聞き、多くの命が失われた上に今があるのだ、ということを実感しました。

２日目に平和記念式典に参列した時は、とてもたくさんの人が参列していて、私が思っていた以上に大勢の人が平和について真剣に考えているのだなと思いました。

また、平和宣言の中でガンジーの「非暴力は人間に与えられた最大の武器であり、人間が発明した最大の武器よりも強い力を持つ」という言葉が引用されていたのですが、今こそ、この言葉をしっかりと考えなければいけないのだなと思いました。今でも世界では争いが起きていて、核を盾に威嚇をしている国もありますが、決して原爆による悲劇を繰り返してはいけないんだ、と強く思いました。

ひろしま子ども平和の集いでは被爆者の方から、「原爆が落ちた後の市内でとてつもない数の死体を目にした時、友人は、初めのうちは泣き叫んでいたのだけれど、しばらくすると何も感じなくなってしまったのか泣き止んだ」との話を聞いた時には、「何も感じなくなる」という状態にまで追い込まれてしまったことがとても恐ろしいと思い、今後は二度とそのような状態になってしまうほどの状況になることだけは絶対に避けなければいけないなと思いました。

２泊３日という期間でたくさんのことを経験し、今ある「平和」がとても大切なものなのだということを改めて実感することができました。この貴重な経験を私だけのものとするのではなく、まずは身近な人と一緒に平和の大切さを改めて考え、伝えていき、今の平和がこれからも続いていくように平和への想いを繋げていきたいと思います。そして、いつの日か世界から核兵器がなくなり、核の悲劇が二度と起こらないようにしていきたいと思います。



文京区非核平和都市宣言 40 周年記念事業

# 文京区平和特派員

文京区非核平和都市宣言 40 周年記念事業
文京区平和特派員活動報告書

発行年月　令和 5 年 11 月
発　　行　文京区総務部総務課総務係
〒112-8555　東京都文京区春日一丁目 16 番 21 号
電話　03-5803-1139（平日 8:30～17:15）

印刷物番号 B0123018